

住宅環境が危ない！～しのびよる電磁波汚染の恐怖

ホームへ戻る	電磁波とは？	マイクロ波とは？	被曝量と発病率	電磁波に遮断できる
電磁波から身を守るには？	紫外線	盗聴・盗撮の実態	測定器・探知器	最新情報

電磁波の影響を最も強く受けるのは胎児・乳幼児の成長細胞

新聞・雑誌等で報道された電磁波特集は》》》 こちら	ひと目でわかる
電磁波シールド エプロンは》》》 こちら	電磁波シールド
「危ないオール電化住宅」加藤やすこ・著 緑風出版 1400円＋税	「やっぱりあぶない、IH調理器 三五館 1000円＋税

住宅の購入・転居の際に、まず最初に考える住宅環境は交通の便、買い物の便、周囲の騒音、職場・学校関係などが最優先されますが、時代の変化とともに住宅を取り巻く環境も急速に変化しています。

例えば、静かで空気の澄んだ地域が一変して焼却場から排出される有害な化学物質や産業廃棄物等で汚染され健康の不安に晒されます。[シックハウス\(病んだ家\)症候群は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

ところが、ここ数年来、全国の住宅地域で新たな環境問題が発生し、闘争や訴訟にまで発展しています。それが「[電磁波問題](#)」です。[関連記事は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

高圧送電線鉄塔や電波塔の建設による、健康被害や健康不安に対する地域住民の建設反対や撤去の運動が全国的に拡大しています。

これらの鉄塔からは、人体に有害な電磁波が放出されており、欧米では十年以上も前から電磁波の人体に与える影響を疫学調査し、住宅・保育所・幼稚園・学校・子どもの遊び場・オフィス等の建設に厳しい規制をしています。[関連記事は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

近くに鉄塔が無くても、窓を開けると目の前に高圧送電線が通っている場合や地下1.5～2mに埋設された地下送電線近くに居住している場合には、鉄塔付近に居住する以上の電磁波被曝を受けています。[関連記事は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

日本では電磁波規制がなく、それどころか逆に電力業界と電機メーカーは家庭用電圧を現在の100ボルトから200ボルト級、400ボルト級まで引き上げることを計画し、15年ほどかけて実現を目指す方針です。[関連記事は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

すでに通常の家庭用電圧(100ボルト)の倍で動く「[200ボルト家電](#)」が家庭に浸透し始めました。洗濯乾燥機やクッキングIHヒーター、エアコンなど「ハイパワー」を売り文句とした家電製品が普及しています。発電所でつくられた高圧の電気は最終的には自宅近くの変圧器で200ボルト及び100ボルトにされて家庭に送り込まれています。すでに分電盤が100ボルトと200ボルトの両方に対応できるタイプになっている住宅は多く、コンセントまでの配線工事さえすれば200ボルト家電が使えます。電力業界が提言している、電柱までを2万2000ボルトまで増やし家庭へも200ボルト級や400ボルト級で届くように求めている[高電圧構想](#)が、我々の知らない間に実行されつつある現状に危機感を覚えます。「ハイパワー」家電は健康への「ハイリスク」をもたらします。ちなみに世界の電圧はEUが220ボルト、米国 120ボルト、カナダ 110ボルトです。狭い日本の住宅で200ボルト級、400ボルト級にする必要性と健康への影響を考えると極めて危険な構想であると言わざるを得ません。

[厚生労働省](#)は電力、電気溶接、電気加熱炉、医療、鉄道の各業界の社員らに小型の測定器を携帯してもらい、勤務時間中の電磁波被曝(超低周波磁場)を5年前から調査した結果一般環境の電磁波強度(一日平均で0.1マイクロテスラ = 1.0ミリガウス)に比べて労働現場(電力関係では発電機の巡回点検者・送電部門・変電部門・配電部門、電気溶接関係では橋や船舶の製造現場等)の電磁波強度は最も高かった人で1240マイクロテスラ(12400ミリガウス)と一万倍超も有ることがわかりました。[詳細記事は》》》 \[こちら\]\(#\)](#)

<高圧送電線・配電線・変圧器・屋内の配線系統・電化製品等から発生する低周波磁場と小児白血病・小児脳腫瘍との実態調査>